

令和6年度 学校教育目標等

教育局	オホーツク	学 校	北海道 常呂 高等学校	課 程	全日制課程
-----	-------	-----	-------------	-----	-------

1 学 校 教 育 目 標

- 『今』をきびしく見つめ 考え 行動する人
- 美しきもの 崇高なものにめざめ たえず求める人
- 体をきたえ 心をみがき たくましく生きる人

2 スクール・ミッション

- 地域との連携・協働を通じて、地域の課題に向き合い、解決するために必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成
- 社会人としての基本的な資質を身に付け、地域の課題に対して主体的に考え、取り組むなど自ら課題解決していく生徒の育成
- 地域に係る学びを通して、地域課題の解決に資する人材の育成

3 3つの方針（スクール・ポリシー）

○育成を目指す資質・能力に関する方針
思考力・行動力に優れ、豊かな感性を活かして物事の本質を究め、課題解決に導くことができる
○教育課程の編成及び実施に関する方針
持続可能な地域の創り手となるために、生徒及び地域の実態を踏まえ、地域に根ざした活動を推進する。
○入学者の受入れに関する方針
心身が健康で、他者と協働することができるとともに、自ら意欲的に学ぼうとする生徒を求める。

4 指 導 上 の 重 点 事 項

重点 目標	1 学力の向上を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するとともにICTを効果的に活用する。 2 生徒の学びを通じて地域創生を実現するため、小中学校及び地域と連携・協働した学習活動を推進する。 3 困難に打ち克つ人格を涵養するため、主体的に探究することができる資質を養う。 4 他者と良好な関係を築くため、コミュニケーションを礎に人間関係構築能力を育む。
学 習 指 導	1 基礎学力の定着と発展的な学力の育成を目指し、効果的な学習活動を推進する。 2 「学ぶ喜び」「わかる喜び」を実感できる授業を実践し、主体的な学びを推進する。 3 観点別評価や授業評価を活用し、授業の工夫・改善に努め学力の向上を図る。 4 地域における探究活動や実習活動をととして、ものの見方や考え方を深め、持続可能な地域の創り手となる資質を磨く。
生 徒 指 導	1 生徒指導の提要是、生徒理解と進路指導であることを深く理解し、生徒と教師の信頼関係に基づいた指導によって、健全な自己有用感を育成する。 2 主体的な生徒会活動や部活動を通じて、豊かな人間性の育成に努める。 3 家庭や地域・関係機関と連携しつつ、ICTの活用を図り生徒指導を推進する。 4 いじめ防止基本方針に基づき、組織的に早期発見・早期対応に努める。
進 路 指 導	1 3年間を見通した計画的・系統的・継続的な進路指導を充実させる。 2 望ましい職業観や勤労観を養い、自己理解を深めさせ、各々の目標や気付きに基づいた進路指導を行い、一人ひとりに寄り添った教育環境の充実を図る。 3 保護者との密接な連携により、望ましい進路選択の援助に努める。 4 地域との連携を深め、社会性、協働性及び社会に貢献する力を育む。
健 康 ・ 安 全 指 導	1 危機回避能力を身に付けさせ、安全に行動できる態度を育成する。 2 清々しい学習環境づくりのため、自らが環境美化に努める意識を高める。 3 教育相談を充実させ、スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒理解に努める。 4 地域の関係機関とも連携し、特別支援体制を充実させ、生徒個々の能力を高める。 5 情報が氾濫する時代に正しく情報を収集し、「最適解」や「納得解」を見つけ、<u>自他を大切に</u>する適切な判断や行動、修正する力の育成を図る。

令和6年度 学校経営シラバス

職員会議資料

＜校訓＞ 流汗克己	＜学校教育目標＞ 1 『今』をきびしく見つめ 考え 行動する人 2 美しきもの 崇高なものにめざめ たえず求める人 3 体をきたえ 心をみがき たくましく生きる人
育成を目指す資質・能力	
・観る…客観的・俯瞰的に物事をとらえ、得た情報に対して的確に取捨選択や分析を行うことで物事の本質へ迫って行くことができる。 ・思考…物事の本質を見極め課題を発見し、根拠や筋道を明らかにして論理的に考え、解決に向けて試行錯誤することができる。 ・行動…主体的な姿勢で課題を自分事ととらえ、計画性を持って臨機応変に判断を下しながら解決することができる。 ・感性…豊かな共感性や鋭い直観力をもって、自然や芸術の美しさ、郷土への愛、人間の感情の機微などを感じることができる。 ・寛容…大らかな心や広い視野を持ち、多様性を深く理解することで、自身とは異なる文化や考えを持つ他者やありのままの自己を受け入れることができる。 ・探究…向上心を持って多くの物事の深奥を求め続け、特に関心のある事柄については粘り強く究めていくことができる。 ・健全…健康な心身を保持・増進するために努力し、社会の規律を守る気持ちや様々な危機に対応する知識・能力を持って自身の安全を守ることができる。 ・克己…どんな時でも諦めず前向きに気持ちを切り替え、自己を律して困難を乗り越えることができる。 ・協働…社会の一員として他者と豊かな関係を形成し、適切にコミュニケーションを取りながら力を合わせて活動することができる。	

～「安全・安心な学校」・「主体的に学ぶ学校」・「活力ある学校」～

領域	対 象	今年度の重点事項	目標達成のための評価の観点
教 育 活 動	学習指導	① 基礎学力の定着と発展的な学力の育成を目指し、効果的な学習活動を推進する。 ② 「学ぶ喜び」「わかる喜び」を実感できる授業を実践し、主体的な学びを推進する。 ③ 観点別評価や授業評価を活用し、授業の工夫・改善に努め学力の向上を図る。 ④ ウェルビーイングな視点を持って、地域における探究活動や実習活動を行い、持続可能な地域の創り手となる資質を育む。	① 基礎学力及び発展的な学力が生徒に育成できたか。 ② 生徒が学ぶ意義見い出せ、生徒主体の授業を実践できたか。 ③ 観点別評価等評価を活用した授業改善が行われたか。 ④ ウェルビーイングを意識した地域との協働により、探究活動及び実習活動が円滑に実施することができたか。
	生徒指導	① 生徒と教師の信頼関係に基づいた指導により、健全な自己有用感と自己指導力を育成する。 ② 主体的な生徒会活動や部活動を通じて、豊かな人間性の育成に努める。 ③ 家庭や地域・関係機関と連携しつつ、ICTの活用を図り生徒指導を推進する。 ④ いじめ防止基本方針に基づき、組織的に早期発見・早期対応に努める。	① 生徒との信頼関係が構築できたか、また生徒の自己肯定感を育て、自己指導力を高めることができたか。 ② 各活動を生徒が主体的に行うことができたか、またこれらの活動により豊かな人間性が育まれたか。 ③ 家庭や地域・関係機関との連携を密にするとともに、ICTを活用した生徒指導を行うことができたか。 ④ いじめに係る未然防止と早期発見、早期解決を実現できたか。
	進路指導	① 3年間を見通した計画的・系統的・継続的な進路指導を充実させる。 ② 正しい自己理解と自己指導力を伸長させ、望ましい職業観や勤労観を養う指導の充実・改善を図る。 ③ 保護者との密接な連携により、望ましい進路選択の援助に努める。 ④ 地域と学校が協働して地域を育み、社会性、協働性及び社会に貢献する力を育む。	① 各学年で進路ノート等を活用し、計画的・系統的・継続的なキャリア教育が実施できたか。 ② 企業・官公庁等を含めた地域の多様な人材を活用し、望ましい職業観・勤労観を育成するための機会を設けたか。 ③ 保護者会や個別面談等とおして、保護者が必要とする情報提供ができたか。 ④ 「TP」や「地域実習」等の指導において、地域と協働し、地域に貢献できる力を育むことができたか。
学 校 運 営	健康・安全指導	① 危機回避能力を身に付けさせ、安全に行動できる態度を育成する。 ② 清々しい学習環境づくりのため、自らが環境美化に努める意識を高める。 ③ 教育相談を充実させ、スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒理解に努める。 ④ 地域の関係機関とも連携し、特別支援体制を充実させ、生徒個々の能力を高める。	① 様々な事態を想定した安全教育の工夫・充実が図られたか。 ② 環境づくりを意識した清掃活動等により、学習環境が維持できたか。 ③ 生徒理解の充実のため、スクールカウンセラー等関係機関との連携が円滑にできたか。 ④ 地域及び関係機関と連携し、特別支援に係る校内体制を構築できたか。
	信頼される学校づくり	○保護者及び地域から信頼される学校づくりの推進 ①学校だよりやHP等の広報活動の充実 ②幼・小・中及び関係機関との連携強化 ③学校評価の改善と充実	① 学校だよりやHP等を活用し、適切な時期に教育活動の成果等を伝えることができたか。 ② 学校運営協議会をはじめ、各関係機関との連携がスムーズに行えたか。 ③ 評価を踏まえた教育活動の改善がされたか。
	組織運営	○学校経営参画意識の向上 ①職員の協働意識の高揚 ②危機管理意識の定着化 ③勤務時間縮減の推進 ④地域に選ばれる学校作り	① 職員会議や各打合せ等を活用し、情報共有に努めたか。 ② 常に危機管理を意識し、具体的事例をもとにした研修等に取り組んだか。 ③ 定時退勤日や部活動休止日を設定し、実施できたか。 ④ 在籍して誇らしく、入学したい学校になってきたか。
教 職 員 の 資 質 能 力 向 上	教職員の資質能力向上	○日常的な研修の推進 ①教科指導力の向上を図る研修の推進 ②学校職員人事評価制度と教職員育成指標の活用 ③法令遵守と服務規律保持	① 各自がテーマを持ち、授業研究週間や校外での研修会、講習会等に積極的参加したか。 ② 人事評価制度に基づく個別面談等により、職員が自己のキャリア形成を意識し、適宜適切な助言をすることができたか。 ③ 不祥事防止に向け、適切に情報提供が行えたか。